

10月1日

テーマ：金持ちとラザロのたとえ

聖書箇所：ルカの福音書16章19節～31節

◆今日のみことば

アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』
ルカの福音書16章31節

◆メッセージ

いのちは大切です。でも、どんなに大切にしている、いつかはみんな死んでしまいます。お金も大切です。でも、死んでしまったらなんの役にも立ちません。そのことについて、イエスさまはこんなたとえ話をしてくださいました。

ある金持ちが、毎日ぜいたくに遊びに暮らしていました。好きなもの食べ放題。その金持ちの家の玄関にはラザロさんという貧しい人がいました。ラザロさんはおなかがペコペコで『金持ちの食べ残しでもいいから欲しいな～』と思っていました。しかし金持ちは自分のお家の前にいるラザロさんを知らず。自分のことしか、考えていませんでした。神さまは、周りの人に心に向けて分かち合うようと命じておられるのに。やがて、二人は死にます。ラザロさんはアブラハムさんのいる天国に行きました。いっぽう金持ちは、「ハデス」で苦しむことになりました。



お金持ちは、ラザロさんと一緒にいるアブラハムさんに頼みました。「助けてくれ。そこにいるラザロに水を持ってこさせてくれ！」しかし、アブラハムさんはこう言いました。「あなたのいる所と、ここは、行ったり来たりすることはできません。」死の後は、天国とハデスにはっきりと分かれることがわかります。苦しむ金持ちは、自分の家族にはこんなところに来てほしくないと思いました。「じゃあ、そこにいるラザロを、私の家につかわして、私の兄弟たちがこんなに苦しいところに来ないように言いかせてください。」でも、答えはこうでした。「彼らにはモーセと預言者(聖書)があります。この教えを聞いて従わないなら、死んだ人が説得しにいても、聞き入れることはしません。」。これは、「聖書のことばを聞いても信じない人は、もし仮に天国や地獄から戻って来た人の体験談を聞かされても、悔い改めることはない。」ということです。信仰は聖書のことばからくるのであって、奇跡(なにか特別な体験)からくるのではないからです。そして、信じるということは、みことばに聞き従うことだということです。やがて必ず死ぬことを考えて、みことばに聞いて従う歩みができるようにお祈りしていきましょう。



◆お祈り

「神さまのことば(聖書のことば)を、たいせつにして、いきっていくことができますように。」

(静岡めぐみ教会伝道師 杉山義也)